



## 短期留学プログラム受入留学生



**YOUCは  
世界中の人々を結び  
すばらしい架け橋**

**黄 一迂**  
(コウ・イーセン)

原籍大学 /  
東北财经大学(中華人民共和国)

私は、10歳のとき、上海市小荧星芸術団の一員として、日本の福岡県で文化交流をしました。それ以来、日本の優美な景色と素朴な民俗性を、私はとても好きになりました。あれから10年がたち、思いがけず、私は再びこの美しい島国を訪れました。私と日本とは、きっと縁があるのでしょう。

小樽商科大学が交換留学のチャンスをくれたことで、この縁が続くことになり、本当に嬉しく思いました。小樽は、小さな街で、大都市の賑やかさはないけれど、重い荷物を持ちながら駅から出て、小樽の地に触れた途端、私はその優美な景色と清新な空気に心を打たれ、すぐ好きになりました。

日本に来て、すべてが新鮮で知らないことばかりでしたが、国際企画課の皆さんのおかげで、問題の多くが解決されました。航空券手配、外国人登録、国民保険加入など、生活が落ち着くまで事務の方々がしてくださったすべての事に、感動しました。

YOUCプログラムは、私たち留学生にチューターを付けてくれます。これは素晴らしいことです。チューターたちは、私たちに日本語を教えてくれるばかりでなく、他の面においても色々と援助してくれます。空港まで迎えに来てくれたり、生活面のアドバイスをしてくれたり、外につれ出してくれたり、日本の習慣を話してくれたり、日本料理を教えてくれたりしました。

私の目で見れば、YOUCの先生たちはたいへん熱心に職責を果たしています。とくに初級日本語の先生たちは、日本語をぜんぜん知らない私たちに対して、とても根気よく指導してくださいます。勉強に飽きてしまったこともありましたが、先生は丁寧に教えてくださいました。

YOUCは、世界中のいろいろな国の人々を結びつける素晴らしい架け橋だといえます。このプログラムを通じて、私たちの視野は広がったし、お互いの文化、とくに日本文化への理解も増しました。同時に、YOUCは各国民の友情を増進します。私はここでたくさんの友達を作りました。皆がお互いに助け合うから、まるで大きな家庭みたいです。友達どうして交流するおかげで、日本語の進歩はもちろん、自分の社交能力も高まりました。YOUCプログラムで、私はひとり暮らしの体験をすることになりました。中国の大学では、みんな寮に住み、食堂でいっしょに食事することになってますから、なかなかひとり暮らしのチャンスがありません。私は今、もう完全に一人で生活ができて、買い物、食事づくり、掃除など、何でも自分でやっています。この1年が終わったら、自分の適応能力はさらに高まって、何時何処でも自立できるのではないかと信じています。

日本文化を深く理解する機会を与えてくれた小樽商科大学国際交流センターに対して、ありがたい気持ちでいっぱいです。1年間の日本留学は、私の人生の中できっと強く記憶に残ることでしょう。小樽の落ち着いた生活の息づかいを、一生忘れられません。



**日本での経験は  
見慣れたものを  
新たな目で見える感覚**

**グレアム・ワズバーグ**  
(Graham Wasberg)

原籍大学 /  
ウェスタンミシガン大学(アメリカ合衆国)

私の名前はグレアム・ワズバーグです。ミシガン州郊外の小さな町デイヴィソンから来ました。そこは、かの有名な政治風刺映画監督マイケル・ムーアの故郷でもあります。本人は認めないかもしれませんが、デイヴィソンはこれといった特徴のない町で、ゼネラル・モーターズがそこでの自動車製造中止を決定した時には、周辺の都市ともども大きな経済的反動を被りました。しかしその後、この町が自身の改革を余儀なくされたために、私はつねに新たなビジネスを起こす起業家たちを身近に感じ、企業経営に興味を持つようになりました。そして現在、ウェスタンミシガン大学でそれを専攻しています。学期中私は、ブロンコ・マーチング・バンドに参加して大学のフットボールの試合(古き良きアメフト、というやつです)でサクソフォーンを演奏したり、州内で見つかる限りの氷河の斜面でスキーをしたり、お気に入りのパンク・バンドを追っかけて五大湖地方を回ったり、空っぽの駐車場を見つけては友人たちとストリート・ホッケーをしたりして過ごしています。専攻と二つの副専攻を英語と日本語で学びながらです。

私が日本語を勉強し始めた理由は、本当のところを言うのは少々恥ずかしいですね。子供のころ、私はマンガ映画を見るのが好きでした(まあ今でも少し)。ディズニーやニッケルオデオン(子供向けテレビチャンネル)のような子供っぽいやつを卒業してからは、アニメーションという方が正確でしょう。ハイスクールで私は、ドン・ハーツフェルト等のアニメ製作者に触発され、アニメーションのより技術的な面をかじって、マンガ映画やクレイメーションをいくつか製作しています。そして、私の町にもアニメの大流行がやってきました。私も当時、日本のアニメーションに、子供向けのグーフィーやドナルド・ダックのおふざけではない成熟した内容を感じ、感銘を受けたものです。日本語を学ぶことでこういったマンガ映画の真価を完全に理解できたら、と思いました。そして、ハイスクールでは1学期、大学では2年間、日本語を学ぶことができました。その頃にはアニメは単なる趣味の一つになり、私は日本語を活用するもっと実利的な目標を探すようになりました。アメリカ企業では2カ国語を話せる従業員が慢性的に不足しており、日本語はビジネスになるのです。

私のこれまでの日本での経験は、見慣れたものを新たな目で見えるような感じです。間違いなく私は、とんちんかん言葉遣い、ばかげた買い物、乗り物でのハプニングといった数々の逸話とともに帰国することになるでしょう。すでに経験してきたこと以上に、時折いまは休暇中であるかのように錯覚したりもしますが、いや、こんなことでは勉強が台無しですね。私はここにいる間に多くを学びたいと思っています。よく言うように、「継続は力なり」です。